

神田外語大学

INFORMATION

神田外語大学 公式サイト

神田外語大学の公式サイトでは、入試や学部情報を提供しています。

メニューの「受験生の方へ」から受験生応援サイト「THE WORLD GATE」へ進むことができます。



URL▼
https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/

英語の外部資格・検定試験の活用やプレゼンテーションを取り入れた選抜など、ユニークな選抜を実施している神田外語大学。世界とつながる外語大ならではの評価方法を展開している。学部・学科ごとの特色ある選抜を通して、神田外語大学で学ぶ意欲のある受験生を広く受け入れる方針だ。

総合型選抜〈前期〉はプレゼンテーション型

学校推薦型選抜は従来どおりに実施

総合型選抜〈前期〉は、外国語学部英米語学科、アジア言語学科（インドネシア語専攻、ベトナム語専攻、タイ語専攻）、イペロアメリカ言語学科、グローバル・リベラルアーツ学部において実施する。基本的な知識・技能・コミュニケーション能力だけでなく、これからの時代に求められる「思考力・判断力・表現力」「課題に向き合う主体性」をプレゼンテーションと面接を通して多面的に評価する。

プレゼンテーションは学部・学科・専攻によって英語または日本語で行う。テーマは事前提示して準備する形式。実際に大学で学ぶような課題に対して興味関心があるかを見極め、構成、表現力、説得力などを評価する。

学校推薦型選抜は、従来どおり公募学校推薦入試と指定校推薦入試を実施。公募学校推薦入試では、出願基準・条件として英語の外部資格・検定試験を用いる。グローバル・リベラルアーツ学部の入試においては、実用英語技能検定を出願基準として利用する。

年内入試の合格者全員を対象に

入学前教育を行う

神田外語大学では、総合型選抜と学校推薦型選抜、特別選抜の年内入試合格者全員を対象とした入学前教育を実施している。入学直前まで課題に取り組み、課題によってはアプリなどを利用してオンラインで指導が行われる。

ここで大学の学習に関する目標を設定し、学びの成果を最大化させる狙いがある。

一般選抜では大学入学共通テストを

併用した選抜を実施

一般入試は英語と国語を課す2科目型で実施する。共通テスト利用入試は2科目・3科目・4科目型で実施。また、英語・国語の独自試験に加え、大学入学共通テスト1科目の得点を加算して合否判定を行う「共通テストプラス入試」も引き続き実施する。外国語学部の一般入試、共通テスト利用入試においては、従来行ってきた1回の出願ですべての学科・専攻を併願できる「世界出願」を継続して実施する。

英語の外部資格・検定試験を

出願資格や合否判定に活用

神田外語大学では、以前から英語の外部資格・検定試験を積極的に活用し、英語学習に励む受験生の頑張りを幅広く評価してきた。2023年度もその方針は変わらない。

外国語学部の一般選抜では、すべての入試区分で英語の外部資格・検定試験（4技能）の資格・スコアを加点等の基準として利用。具体的には、実用英語技能検定の準1級以上で「英語」の試験がみなし満点に、2級で5点を加点して合否判定を行う。また、グローバル・リベラルアーツ学部の総合型選抜、学校推薦型選抜※、特別選抜では、実用英語技能検定2級以上が出願の最低基準となる。

※公募学校推薦入試は、英検2級以上合格かつ
英検CSEスコア2,100点以上



アドミッション&コミュニケーション部
アドミッションチームシニアマネージャー
相良 亜希

期待する受験生像

神田外語大学は、「世界への入り口」です。語学に強い興味・関心をもち、グローバル社会での活躍をめざす受験生を広く受け入れる方針です。英語の外部資格・検定試験を活用するにあたり、多様な試験の結果を用いた評価基準について、1年ごとに見直しを行っています。本学ならではの授業を受けるために必要な基礎力があるかどうかを、適切に判定することが目的です。学科や専攻ごとに、スムーズに入学後の学びにつなげる基準も策定中です。英語の外部試験対策に加え、志望学科に応じて最新の情報を収集し、入試対策を進めてください。



英語の自立学習のための「理想的な教育環境」を整えた8号館「KUIS 8（クイスエイト）」



神田外語大学のELI（English Language Institute）には、世界各国から招聘した数多くの外国人数員が在籍している

グローバル・リベラルアーツ学部では、1年生全員が海外スタディ・ツアーを経験する。写真は、リトアニア研修で第9要塞博物館を見学し、戦争の歴史を学んでいる様子

アロー総研のフカボリ①

2023年度、外国語学部がカリキュラムを改編！国際教養を身につけるための基盤教育がスタート

外国語学部では、2023年度から新しいカリキュラムがスタートする。そのひとつが、国際教養を身につける土台となる「基盤教育」だ。「アカデミック・ライティング」「デジタル・シチズンシップ」「クリティカル・リーディング」「数的思考（データサイエンス）」「キャリア・デザイン」の5つの領域を加えた新しい基盤教育は、環境や貧困、格差問題など、国境を越えて複雑化する世界の課題に対応できる能力を身につけるためのものだ。1年次に基礎演習として全30回の講義を受講したのち、2年次前期でより具体的に将来を考えるキャリア・デザイン（基礎）を受講する。自分自身について分析し、世界で起きている出来事をつねに国際教養、そして情報を読み解く力を身につけたうえで、生き方や社会のあり方、キャリアを考える。

また、外国語学部では、「専門性」のある学びを得るための「研究科目」を設置している。学生は所属する学科・専攻および各自が選択する学科・専攻指定コースで定められた研究科目に加えて、全学科・専攻の学生を対象に開講される研究科目を広く履修することにより、多角的な観点から物事を考察する力を習得する。

加えて、これまで選択科目だった外国語学部のゼミが、2023年度からの新カリキュラムで必修になり、全学生がゼミ（研究演習・応用演習）を履修することになる。学生主体で運営されるゼミでは、指導教員のもとで多様な意見を交わらせ、一歩先を進む先輩たちの姿を見て学び、アドバイスを受けながら研究を進めていく。ゼミは、4年間の学びの集大成としての位置付けだ。

外国語学部は、基盤教育、研究科目、ゼミ等によるカリキュラムで、国際教養人の育成をめざす。

成長著しいアジアや中南米の言語と文化を学ぶ学科も

外国語学部にあるアジア言語学科とイペロアメリカ言語学科のユニークな学びにも注目したい。

近年成長著しく世界から注目されるアジアと中南米。アジア言語学科では5カ国・地域の言語をひとつの学科に集約することで、国単位ではなく広く「アジア」という地域で世界をつねに力をつつ。イペロアメリカ言語学科では、スペイン語圏とポルトガル語圏を知ることにより広い視野で世界を見つめ直す力を身につけることが可能になる。

アロー総研のフカボリ②

2回の海外留学で世界を知り、考え、行動するグローバル・リベラルアーツ学部の学び

2021年4月に開設された、グローバル・リベラルアーツ（GLA）学部。GLA学部では、1年次の海外スタディ・ツアー、3年次のニューヨーク州立大学（SUNY: The State University of New York）への長期留学という2回の海外留学を必修とするなど、特徴ある教育を展開している。世界を知り、考え、行動する能力を磨き、世界の課題に挑戦する強い意志と幅広い教養を兼ね備えた人材を育成する。

GLA学部のカリキュラムコンセプトは、Global Liberal Arts for

Peace（平和のためのグローバル教養）。高い英語運用能力を身につけ、「Humanities（人間と文化）」「Societies（社会と共生）」「Global Studies（グローバル・スタディーズ）」の3つの分野を専門的に学ぶ。コロナ禍の2021年度は、オンライン学修を中心とした4週間の「海外スタディ・ツアー2.0」を展開。さらに、2022年2月には1週間のリトアニア研修を実施し、学生たちは海外スタディ・ツアー2.0での学びを実体験に結びつけた学習に取り組んだ。

2回の海外留学を中心に、実践と理論を通して体系的に国際教養を身につけ、世界の平和に貢献できる人材を輩出するのがGLA学部のミッションだ。